



芦北町議会だより

うたせ

第8号

平成19年
1月30日発行

祝 佐敷小学校落成



12月定例議会	P 2～3
幼稚園存続陳情についての報告ほか	P 4
一般質問に3議員登壇	P 5～7
議員研修報告書ほか	P 8

12月定例議会



審議中の12月定例議会

12月定例議会は、12月21日に招集され、22日までの2日間の会期で開催した。

上程された議案は、平成18年度一般会計補正予算ほか特別会計補正予算4件、条例の一部改正6件、町道の路線認定1件、防災行政無線通信施設整備工事の工事請負契約の締結についてなど17議案と議員提案による全国森林環境税の創設を求める意見書の提出議案についてで、いずれも慎重審議の結果、原案通り可決した。

また、県道越小場湯浦線改良工事についての陳情書など4件の陳情と1件の請願については所管の委員会に付託した。

一般質問には3議員が登壇し、執行部の考えをたじた。

問

繰越明細費について、防災行政無線設置事業の繰越しの理由は。

基本的には、デジタル防災行政無線を整備するが、山間部や海岸部の一部においては受信困難な地域もあるので、簡易無線局を設置して、2つのシステムを組み合わせた複合型の地域情報防災施設を構築する事業である。

現在、本町における情報伝達手段は、旧田浦町が防災行政無線、旧芦北町がオフトーク通信と、異なる伝達手段であり、提供している情報内容についても均衡を欠いている状況にある。

このことから、デジタル方式による防災行政無線を町内一円に整備し、危機管理や行政情報伝達の一元化を図るものである。



旧田浦町の防災行政無線（屋外）



旧芦北町のオフトーク通信（屋内）

答

平成18年度の完成を目指して、総務省と協議を進めてきた。当初、本町が構築するデジタル防災無線と簡易無線の2つの異なる免許の接続は、電波法上認められないとの総務省の見解であったが、協議の結果、9月上旬になり、法的に接続することを妨げる文言もないとの総務省からの見解を受け、その後、事業着手に向けた事務を進めてきた。しかし、年度内の事業完成には工期的に無理があり、繰り越すこととなった。遅れたことに対し十分反省している。

繰越明細費とは？

年度内に経費を使用し終わらないことが予想されるものについて、予算で定めて繰り越すこと。

芦北町防災行政無線設置工事
（全戸別受信機を設置）
4億8,930万円で契約。

補正予算を可決

今回の補正額（増額分）は、一般会計・特別会計をあわせて
2億3,197万2,000円

会 計 名	補正額（増減）	補正後の総額
一 般 会 計	3億3,587万3,000円増	118億1,500万円
国民健康保険特別会計	4,745万3,000円増	29億7,381万9,000円
介護保険特別会計	1億5,792万円減	19億9,111万5,000円
農業集落排水特別会計	629万1,000円増	2億7,430万円
町有温泉特別会計	27万5,000円増	1億2,597万5,000円

●補正予算の主な内容（一般会計）

- ・コミュニティ助成事業補助金（祭り用具整備） 250万円
- ・地域包括支援センター運営事業委託料 455万円
- ・子ども医療助成費 546万円
- ・後期高齢者医療広域連合負担金 44万円
- ・町営4団地火災報知器設置工事 306万円

大字芦北字大迫尻を起点、大字芦北字井出上南を終点とする大迫3号線と、大字道川内字塘田を起点・終点とする乙千屋川左岸線の2路線を町道として認定した。



町道に認定された大迫3号線

2路線を町道認定

安倍総理・関係各大臣へ 意見書を送付

全国森林環境税の創設を

森林が、地球環境の保全に果たす役割については多くの国民の知るところである。

しかし、山村地域においては、木材価格の低迷に加えて後継者不足などの問題があり、これまでのように十分な森林の保有・管理が出来ない結果、放置森林が増加する傾向にある。

今後、森林の整備・保全等により国土環境の保全、水源の涵養等の役割を全うしていくためには、都市部や海沿いの地域住民自治体も一緒になって森林を守り育てていく必要があると思われるので、その維持・育成の財源となる「全国森林環境税」の創設を求める意見書を提出した。



漁民の森づくり植樹祭

陳情・請願を委員会へ付託

12月定例議会に陳情4件と請願1件が提出され審査の結果、下記のとおり所管の常任委員会に付託した。

件 名	陳 情 者	付 託 先
県道越小場湯浦線改良工事についての陳情	古石北区長 宮島正文氏 外13名	建設経済常任委員会
主要地方道芦北坂本線（2期）の早期着工についての陳情	主要地方道芦北坂本線建設促進期成会 会長 浅野輝光氏 外5名	建設経済常任委員会
湯南（梶上）地区、通称「柳ヶ丘団地」団地内道路の町道認定についての陳情	湯南地区 区長 新村敏春氏 外20名	建設経済常任委員会
赤松川河口右岸堤防道路の町道認定についての陳情	内藤隆之氏 外26名	建設経済常任委員会
南九州西回り自動車道路芦北インター建設に伴う、「薩摩街道佐敷宿」商店街に通ずるアクセス道路の建設促進に関する請願	薩摩街道佐敷宿商店街 さしき、町四区商栄会 代表 森田晴明氏 外33名	建設経済常任委員会

所管事務審査の報告

芦北町立佐敷幼稚園の存続を

求める陳情書

文教厚生常任委員長報告

六月定例会において、当委員に付託されました、陳情第10号「芦北町立佐敷幼稚園の存続を求める陳情書」について、7月11日、7月26日、12月6日に担当課出席のもと、詳細に審査を行いました。本件は、陳情者代表であります佐敷幼稚園在園児・卒園児保護者有志代表西野利恵氏から提出されましたものであります。

(田浦、佐敷、湯浦三方面の中心部として)何らかの形で存続を切望いたします。と内容でありました。

主な質疑を申し上げますと、

佐敷幼稚園の構内空教室等何らかのスペースにおいての存続を切望する、困難な場合は現プレハブ園舎で存続させていただきたい、また、佐敷幼稚園の佐敷近隣地区園舎等



議会のうごき

- 11月20日 南九州西回り自動車道熊本県建設促進期成会による提言書提出(関係省庁)
- 21日 熊本県選出国會議員及びに国土交通省との意見交換会並びに熊本県選出国會議員への提言書の提出
- 22日 第50回町村議会議長全国大会
- 24日 水俣芦北広域行政事務組合議会議長会
芦北町商工会工業部会懇談会
- 12月 7日 県議長会第4回理事会議
- 14日 議会運営委員会
- 18日 熊本県農業共済組合芦北支所運営協議会
- 21日 12月定例会(開会)
- 22日 12月定例会(一般質問)
- 22日 広報特別委員会
- 1月 4日 賀詞交換会
- 5日 商工会新春懇談会
- 7日 佐敷小学校新校舎落成式
- 8日 芦北町成人式
- 12日 建設経済常任委員会
- 16日 広報特別委員会
- 24日 文教厚生常任委員会・広報特別委員会
- 26日 県議長会第5回理事会議

佐敷幼稚園の継続について、どのような論議がなされたのかとの質疑に対し、平成20年3月31日まで現在のプレハブ園舎で継続することに教育委員会決定したとの説明でありました。

また、佐敷小学校は冬休み明けから新校舎でスタートするにことになり、幼稚園だけが現園舎で継続されることになるということだが、不審者等の問題について、安全面の対策は考えているのかとの質疑に対し、安全面については非常に心配している。近くの公民館、区長さん達との連携、防犯パトロール隊の立ち上げ、

学校警察連絡協議会との連携、役場独自の青色パトロール隊を集中的に佐敷幼稚園付近への要請を行っていくとの説明でありました。

以上、質疑終了後は討論も無く、全会一致で採択すべきものと決しました。



宮島議員

最近、全国的に深刻な問題となっている 「いじめ、不登校」等の問題について

質

町内各学校の実態をどのように把握しているか。

答

教育委員長

いじめについては、町内全ての学校で調査し、不登校については、毎月定例の報告をもらっている。

質

その対策について、教育委員会では、どのような議論をし、その具体的対策を講じてきたか。

答

教育委員長

各学校に命の大切さということを十分注意してほしいと言っている。また、いじめ、不登校、自殺等がないよう調査をし、対策委員会等を校内に設け解決に当たるように指導している。不登校については、スクールカウンセラー等、学校復帰に向けた多様な支援

を行っている。

質

各学校、PTA、地域への指導は、適切に行われているか。

答

教育委員長

各学校では、職員・PTA合同の相談体制により、早期発見、早期対応に努めている。地域では、青少年育成会議、公民館等の活動を通じて学校と地域の連携強化を図っている。

質

各学校の評議員をどのように活用しているか。

答

教育委員長

各校長の責任と権限において、開かれた学校運営に学校評議員の活用をしている。

湯浦慰霊塔公園の整備について

質

数少ない湯浦の公園の一つであり、慰霊塔、温泉神社や展望台もある。周りには、数十年前植えたサクラや自生していたツツジもあるが、雑木が生い茂り、展望も利かず、温泉神社の存在すらわからない状態である。温泉神社周辺の雑木は伐採したらどうか。

答

町長

湯浦慰霊塔公園及び温泉神社周辺樹木の管理については、5月に管理作業を行っており遊歩道や休憩所等から湯浦地区が一望できるようになった。

質

高齢者、障害者の利便性を図るため、裏山からの延長道をつくり、公園を利活用していく考えはないか。

答

町長

湯浦遺族会からも以前要望があり、あらゆるルートを検討した。地形の問題や用地問題もあり、慎重に取り組んでいく。



湯浦温泉神社（昭和43年撮影）

藻場の育成には しゅんせつ 浚渫が不可欠



川尻議員

質

本町の基本計画にある生き
がある働き場づくりの漁業
振興策に「水産資源の確保の
ため、アマモ等の藻場の育成
に積極的に取り組む」とある
がどう具体的に取り組む考え
なのか。

答 町長

藻場の育成については、旧
芦北町は平成13年度から町
単独事業として、旧田浦町は
平成15年度から水俣芦北振
興基金を活用して実施してい
た。その後、事業主体は県に
移ったが、新町でも引き続き
取り組んでいく計画である。

質

河口流域の浚渫は藻場の再
生には必要不可欠と考える。
国県との協議もされ対策を講
じるべきと考えるがどうか。
また、干潟耕運事業は継続
してはどうか。

答 町長

河口流域の浚渫については
県の所管である。今後も県や
漁協と協議の上、対応してい
きたい。干潟耕運事業につ
いては、平成15年度から既
に実施しているが、18年度
は事業効果を検証するという
ことで、一旦休止をしている
段階である。



海底耕運機による作業中（佐敷川河口）

町民がだれでも参加できる町民祭へ

質

合併後、4地域体協になり
町民体育祭が従来のにぎわい
も、盛り上がりもないと多く
の町民から不満の声を聞く。
町長は本町体育協会長でもあ
り町民の不満の声をどう受け
止めているのか。

答 町長

町民体育祭について、直接
不満の声は届いていないが、
趣旨については十分理解でき
るので検討して行きたい。

質

所管の教育委員会として会
議でこのことについて、議論
したことはないのか。

答 教育委員長

議論はしたことはない。私
自身としては、町民体育祭は
非常に盛り上がったと思う。

質

町民のだれもが気軽にスポ
ーツを楽しむことのできる組
織づくりのため、地域体育協
会や関係機関と話し合いをす
る考えはないか。

答 教育委員長

体育協会あるいは、地域体
協長、種目部長、関係者とは
10回以上協議を重ねている。
競技種目等にも工夫しながら
開催をしているが、今後も十
分協議を重ねながら開催する。

一 般 質 問

コンプライアンス(法令の順守)について



寺本順一議員

質

防災行政無線整備事業については、平成17年度、設計業務委託。平成18年度、本体工事と2カ年で本事業の具現化に向け推進されている。

事業推進の過程において、地方自治法に違反するのではないかと思われる点があるようである。

平成17年度の設計委託において、最速でも3カ月はかかると思われる設計業務が、当初予算で準備されていたにもかかわらず、発注の遅れにより業者の決定が年度末の3月中旬に決定している。会計年度締め切りの3月31日までは、残り僅か2週間、物理的に考えても、この大事業設計業務の完成は到底考えられないわけであるが、発注の遅れの理由は何か。

答 町長

無線整備という事業の特殊性から、専門的仕様書の作成

質

設計の成果品は、仕様書に示している平成18年3月30日までに完成し提出されたのか。

い。

質

地方自治法208条、会計年度独立の原則に違反するのではないか。

答 総務課長

年度内付けということでは処理されているので、是非理解してほしい。

答 助役

3月になってしまったことについて、私も責任を十分感じ反省している。今後そういうことがないように適正工期の中で仕事をするようにしていきたい。

答 助役

この処理については、検討した結果、補助金との関係もあり30日付けでさせていた。2週間の工期になったことについては、私も反省しているのご理解いただきたい。

鶴掛山中継局現況写真



現水俣市消防本部鶴掛無線中継所

「総務大臣感謝状」の栄誉!!

岡部議員は、芦北町議会議員として10期35年にわたり在職され、議会運営はもとより住民福祉の向上や地域の振興発展に寄与した功績が認められて、今回の受賞となりました。

これまで、同議員が町や県の身体障害者福祉連合会長や県身体障害者相談員として、身体障害者の福祉増進に努めてこられたことは周知の事実ですが、さらに郡や町社会福祉協議会の評議員、理事、副会長としても、長きにわたり社会福祉活動の推進に貢献されてきました。

岡部恵美子議員



議員研修報告書

●国会議事堂

まず、本会議を傍聴し、次いで安全保障委員会を傍聴しました。本会議では傍聴席にも多くの警備員を配置して、私語など出来ない厳粛さがあり、委員会に至っては各委員の活発な質疑を目前で傍聴し、その迫力には圧倒されるものがありました。

芦北町議会では、昨年の11月に「国会議事堂」と群馬県みどり市の「星野富弘美術館」、滋賀県守山市の「市民100人委員会制度」を視察しましたので、その内容についてご報告します。

●星野富弘美術館

美術館所在地はあまり交通の便が良くなく、担当者も裏街道というほどの山間地でしたが、入館者数は月によって、多少のばらつきはあるものの、年間(平成17年度)は33万人と、かなりの数になっています。

私たちが研修した日も平日の午前中でしたが、館内は列を作つて鑑賞しなければならぬくらいに混雑しており、午後には2,000人の団体予約も入っていました。

芦北町の星野富弘美術館も、まだ開館したばかりですが、星野富弘さんのファンは全国に数多く存在しており、PR次第では県内

のみならず、県外からも多くの来館者を呼ぶことが出来る施設であると思われる。

国会をバックに記念撮影



●滋賀県守山市

「市民が主役のまちづくり」の積極的な推進とともに、自主・自律的な地方主権によるまちづくりを確立していくための「市民100人委員会制度」を研修しました。

メンバーは公募で選ばれた75人ですが、あくまで政策決定機関ではなく、行政側が原案を作るために意見聴取したり、政策提言するのを目的としています。市民の知恵や知識、能力を市政に活かしたいとの考えによるものですが、近年、急速に市民による市政への参画意識が高まっている中で、このような市民を巻き込んだ市政運営は必要不可欠なものになるだろうと実感しました。



群馬県みどり市での研修

編集後記

年頭から凄惨な事件が続く。ただ、我町の成人式は厳粛かつ立派で、仕事や勉学に励む中で考える将来の夢を、二名の若人が堂々と発表した。江戸の昔より知恵を絞り、世界一美しい国を造った日本人が、今や家族、我子の命さえ奪つてしまふ。何故なのか？溢れる情報社会の中、人間性確立前に、仮面を覆った理想が身に付き、現実との落差に自分を見失うのである。世界も一触即発の様相だ。今後を生き抜く根本は、「生きた力」であり、雑草の如く、強く生きる力を養う教育が不可欠である。夢の有る子供達が将来、「こんなはずじゃなかった。」と思わない為に。

(宮尾)

議会広報特別委員会

委員長	元山 秀志
副委員長	前田 徹一
委員	宮尾 秀行
委員	白坂 康浩
委員	宮島 安
委員	古村 逸男
委員	寺本 順一